

○吉本議長 通告5番目、12番、玉田隆紀議員、一問一答方式で質問をお願いいたします。

玉田隆紀議員。

○玉田議員 12番、玉田隆紀です。議長の許可を得ましたので、通告に従い一般質問の緊急対策について4点、職員体制と環境について3点、質問をいたします。

まず、1番目の緊急対策についてですが、11月6日に議員研修が市役所の会議室にて、普通救命講習の研修を受けました。そしてまた、12月3日には市内全域に避難勧告が発令しました地域防災訓練に参加し、避難所までの道のりをさまざまな想定を考えながら進んでいきました。

到着後、救命の講習や各訓練が行われましたが、ある参加者の方から、実際に災害や、特に救命が必要な状況に遭遇した際、AEDの設置場所も知らない状況なので、とても不安を感じているという声をいただきました。

そこで、まず1点目に、AEDの設置状況と利用状況についてお聞きいたします。

2点目に、岩出市AEDマップの作成と配布の考えについて、お聞きいたしたいと思います。

3点目に、那賀管内での緊急車両出動状況は、平成28年中、過去最多の5,159件ですが、今後の課題と外国人の利用状況についてお聞きいたします。

4点目に、緊急車両の外国人対応策として、スマートフォンなどのタブレットを活用し、多言語音声通訳アプリの導入についてお聞きいたします。

○吉本議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○藤平総務部長 玉田議員ご質問の1番目の1点目、AEDの設置状況と利用状況についてですが、市の施設の設置状況につきましては、本庁舎を初めとして、40施設で49個を設置しており、利用状況は、堀口プールで1回使用しております。

次に、2点目の岩出市AEDマップの作成と配布の考えについてですが、パソコンやスマートフォンから検索できる一般財団法人日本救急医療財団が提供する「全国AEDマップ」等があります。このようなサイトは、市町村名等を入力することにより、全国の自治体及び一般企業のAED設置状況が地図上に表示され、スマートフォンにより、いつでもどこでも検索できることから、現在のところ市としてAEDマップの作成及び配布の考えはございません。

次に3点目、那賀管内での救急車両出動状況は、平成28年中、過去最多の5,159件ですが、今後の課題と外国人の利用状況についてですが、那賀消防組合に確認し

たところ、119番に入電があると全ての事案に対し救急車両が出動しており、今後の課題として、救急車両の要請の中には、緊急を要しない場合もあり、真に緊急を要し、救急車両が必要な方へ対応がおくれてしまう可能性があることから、消防庁のホームページや「広報なが119」に適正利用の協力を求める記事を掲載し、不要・不急の出動件数の削減対策を行っているとのことでした。

また、外国人の利用状況については、平成28年は8件、平成29年は12月14日時点で9件の利用があったとのことでした。

次に4点目、救急車両に外国人対応策として、スマートフォンなどのタブレットを活用し、多言語音声通訳アプリの導入についてですが、救助者が外国人であった場合、まず、救急車両から消防指令センターへ連絡し、受けた消防指令センターから多言語コールセンターに連絡することとなっており、救急車両、消防指令センター及び多言語コールセンターの3者通話により、外国人への対応ができるとのことでした。

なお、現時点では、多言語コールセンターにつなぐ事案はなく、救急車両内にある多言語ボードを活用し、対応しているとのことでした。現在のところ、タブレットでの多言語音声通訳アプリ導入については、利用状況や利便性などを注視していくと聞いております。

以上でございます。

○吉本議長 再質問を許します。

玉田隆紀議員。

○玉田議員 A E D の状況について、1点、質問いたしたいと思います。

和歌山県では、携帯電話会社と共同で、My SOSアプリという、そういうアプリを開発しまして発信をしております。そのアプリを開きますと、自分の位置を知らせるためにGPSを活用して、そしてまた、このアプリを持っている方が近くにおられる場合は、その方に緊急的に連絡する、また、救助をお願いするという、そういうシステムであります。そしてまた、その中には、当然、A E D がどこに配置してあるのかという、そういう案内もできる体制が整っております。

こういったいろんな、さまざまな活用方法があるんですが、ただ、誰しもがこういった携帯電話のスマートフォンなり、またパソコンなりを使える状況下には、まだ完全ではないと思うんですよね。じゃあ、そういった方々は、どうやって、そのA E D の場所を知ってもらえるのか、その点の改善策をまず1点お聞きしたいのと、そういった場合には、できるだけ市の、例えば、防災訓練のときなどには、こうい

うふうなマップがありますよとか、お知らせするような、何かほかの手だての考えがあるのかないのか、お聞きしたいと思います。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○藤平総務部長 玉田議員の再質問についてですけれども、県のMySOSアプリというのをご紹介をいただきました。私、それは内容を存じておりませんが、こういうようなこと、当然、活用していくというのも1つの改善策だと思います。防災訓練等でお知らせという、今、発案がございましたので、この件につきましては、次年度以降の防災訓練の中でも、AEDの活用について、あるいは県での公開しているマップの情報等も皆さんに周知していくような施策を講じていきたいと、そのように考えてございます

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、玉田隆紀議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いいたします。

玉田隆紀議員。

○玉田議員 2番目の質問ですが、職員体制と環境についてです。

2025年には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる年で、これまで国や自治体を支えてこられた団塊の世代の皆様が給付を受ける側になるため、医療・介護・福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れるおそれがあり、さらには教育環境を初め、住民サービスの多様化が進むとともに、行政職員の作業増加が予想されます。さらには、一般企業や行政職員の過酷な残業またはさまざまな要因により体調を崩したり、非常に残念な結果を招く事案が、最近ニュースなどで報じられております。

ある住民の方が、岩出市の臨時職員につかれ、アルバイトをされました。就労期間が終わり、また他市での臨時職員につかれた経験を語られ、その中で、岩出市の職員の皆様は、とても仕事熱心に取り組んでおられ、感心したといううれしい声をいただきました。

岩出市民を陰で支える市職員の環境や健康は非常に大切であることから、1点目に、行政サービスの多様化と少子高齢化が進む現状に備え、職員体制の強化の考えについてお聞きいたしたいと思います。

2点目に、職員の健康管理についてお聞きいたしたいと思います。

3点目に、無記名によるアンケート調査の実施の考えについてお聞かせください。
以上です。

○吉本議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○藤平総務部長 玉田議員ご質問の職員体制と環境についてのご質問にお答えをいたします。

まず1点目に、行政サービスの多様化と少子高齢化が進む現状に備え、職員体制の強化の考えはについてであります。岩出市第4次定員適正化計画に基づき、職員採用を実施しているところです。また、技師、保健師などの専門職員の採用を行うとともに、職員研修の実施、職員資格取得助成を行うなど、職員個々のスキルアップを図り、職員体制の強化を図っております。

2点目の職員の健康管理について、毎年、健康診断を実施し、また、近年問題となっている心の病の対策として、平成28年度からストレスチェックを実施しております。ストレスチェックで高ストレスと判定された職員には、産業医の面談を勧奨し、実施しております。また、今年度より衛生管理者による相談窓口を毎月開設しており、この相談窓口は、ニコニコ相談と称し、職員の高ストレス化の未然防止として、ストレスがたまる前に相談の場を設けることが有効と考え、実施をしております。

3点目の無記名によるアンケート調査の実施についてですが、職員の状況については、所属長からのヒアリングや職員からの相談の中で、現況を把握しているところであり、アンケート調査については、実施の予定はございません。

以上でございます。

○吉本議長 再質問を許します。

玉田隆紀議員。

○玉田議員 岩出市のホームページの中に、職員数の状況の一覧表がありました。その中で類似団体では約382ということで、岩出市におきましては274ということで、約108、ちょっと足りないという状況がありました。

そしてまた、総務省の資料の中に、5万人から10万人の市町村で約76団体があります。その中の一覧表に、和歌山県の岩出市は上から12番目という非常に高い位置で、いかに職員数が少ない中で運営をしているかという表があるわけですが、こういった状況の中で、市の職員の方たちは、さまざまな思いがあると思うんです。

また、住民の方からのいろんな相談も受ける中で、本当の声を聞いていくという

のは、例えば、対面で、本当に自分の心をしゃべれる方もいれば、言えない方もいるんですよ。言えない方にとっては、無記名のアンケートこそが本当の自分の気持ちを訴える場になるんじゃないのかなと、そういう気はするんですが、今の現状で本当に職員の方の心の声を聞き取れていると言えるのかどうか、1点お聞きしたいと思います。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○藤平総務部長 玉田議員の再質問にお答えをいたします。

総務省の状況であるとか、あと、職員数の状況について、今お話をいただきましたけれども、我々は、現在の職員数が適正であると判断をしております。職員数よりも一人一人の能力向上こそが、行政執行能力の強化につながるものと、我々考えております。

それから、アンケートの件ですけれども、職員の健康状況あるいは職場での状況等を最も把握しているのは、あるいは把握すべきは、その所属長であります。そのことから最善の方法と考え、毎年、所属長のヒアリングを実施しているところであり、先ほど答弁をさせていただいたとおりですので、ご理解をいただきたいと思えます。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、玉田隆紀議員の2番目の質問を終わります。

以上で、玉田隆紀議員の一般質問を終わります。